

「イノベーション25戦略会議」について

平成18年10月26日

1. 趣旨

日本社会に新たな活力をもたらし成長に貢献するイノベーションの創造に向け、医薬、工学、情報工学などの分野ごとに、2025年までを視野に入れた、長期の戦略指針「イノベーション25」の策定のため、イノベーション担当大臣が学界、産業界などから高い見識を有する人々の参集を求め、「イノベーション25戦略会議」を開催する。

2. 構成員

(座長) 黒川 清	内閣特別顧問
江口 克彦	PHP総合研究所代表取締役社長
岡村 正	日本経済団体連合会副会長（(株) 東芝 取締役会長）
金澤 一郎	日本学術会議会長（国立精神・神経センター 総長）
坂村 健	東京大学大学院情報学環教授
寺田 千代乃	関西経済連合会副会長（アートコーポレーシ ョン（株）代表取締役社長）
薬師寺 泰蔵	総合科学技術会議議員（慶応大学客員教授） (50音順)

3. 進め方

来年2月末までに7～8回の議論を経て、「2025年に目指すべき社会のかたちとイノベーション」をとりまとめる。

その後、総合科学技術会議等を活用し、来年5－6月までに実現のための戦略的ロードマップを作成する。

4. 会議の公開

会議は委員の自由な発言を確保するため、原則非公開。事後に議事概要を公表。会議終了後、黒川座長よりブリーフ予定。

5. 事務局

内閣府大臣官房イノベーション25特命室

『イノベーション25』の検討イメージ

イノベーションでつくる2025年の日本の姿

<「アジアそして世界との共生」>

<「新しい豊かさ」—生活者の視点—>

- 活力・元気
- 安全・安心
- 環境(自然)
- 家族
- 仕事
- 地域 など

【日本の状況】

- 世界の中での経済規模の相対的な低下
- 資源・エネルギー・食糧問題
- 少子化
- 高齢化
- 女性の社会進出 など

<国民の声>

- ☆ 心の豊かさを重要視する声 57.8%
- ☆ 少子高齢化対策を重要視する声 50.7%
- ☆ 将来の治安について不安視する声 38.3%

※ 内閣府「国民生活に関する世論調査」など
等によるアンケート調査結果

社会のかたちと
イノベーションの
姿づくり(～2月末)

世界から「信頼」される「品格」ある国家
国民生活を支える経済成長

「世界のイノベーションセンター」：世界への製品、技術、サービス等の発信

☆技術の萌芽☆

- テーラーメイド医療
- 生活支援ロボティクス
- 人工知能
- 量子コンピューティング
- 革新的新素材(カーボンナノチューブ等)
- 燃料電池 など

これらの社会を
実現するための政策
ロードマップづくり
(～6月)

イノベーション

「技術革新」 + 「新しいビジネス」
「新しい社会的枠組み」
絶えざる「チャレンジ」と「変革」
(未知なる可能性への挑戦、スピード感ある変化)

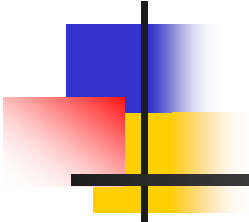
・新たな価値感 ・意識改革 ・社会の変革

【イノベーションとは?】

<語源(ラテン語): Innovare(新たに作る)>
in(内) + novare(新たに)

既存のものに新しいものを吹き込み、新たな
富、価値を創造

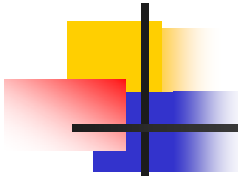
- イノベーションを誘発する社会システム
 - ・イノベーションを生み出す「人」づくり
 - ・融合・協働の「場」づくり
 - ・「起業家精神」の誘発



『イノベーション25』の検討イメージ 参考資料

第2回イノベーション25戦略会議
2006年11月9日(木)

- **2025年の日本社会
予測でなく意図して創る (戦略)。**
- **イノベーション
何か新しいことを創る。下記の2つの方法を区別し、
両方でイノベーションを興す。**
 - ①**科学 (例:ノーベル賞) の発展**
 - ②**既知の知識を発展させ新たな方法で組み合わせ、必要
に応じ社会変革も含めて実現 (技術、ビジネス)**



'06年～'25年の日本の課題

世界の中の日本の課題を直視し、逆境を新たな発展要因や価値を創造するチャンスに変える。

- 世界人口は2割増加する中で、日本の65歳以上の高齢者人口は3割増大（高齢者一人当たり現役世代人口は'05年の3.1人から'30年の2.1人へ減少）し、貯蓄率は激減（'97年の11.5%から'04年の2.7%へ急減）
 - 総生産を維持する労働人口や資本ストックの不足による相対的な経済的地位の低下
- 世界的な資源・エネルギー消費が増大、地球規模の温暖化・水不足が深刻化
 - 日本の経済圏が対外依存している食糧・資源・エネルギーの不足
 - 国際的なエネルギー需給調整と食料需給調整のトレードオフ化
- 生活者の関心は、物質的充足から安心・健康など精神的充足へ変化
 - 従来型産業は生活者のニーズとミスマッチ、旧態の企業組織・文化の限界、財・サービスの開発課題の質的变化
- 知の国際競争時代における日本の競争的環境は少子化によってレベルが低下
 - 新時代に対応する個人個人の能力や開拓者マインドの低下
- 日本での犯罪率の増加、モラルの低下、世界のパワー・バランスの多極化
 - 社会不安の増大、自信と誇りの意識の低下、多種多様な人々と共生共存する社会・文化環境の整備不足

（注1）日本学術会議の「日本の科学技術政策の要諦」における主要課題を参照。

（注2）世界人口は'06年の65億人から'25年の79億人に増加（国連推計）。



25年の日本の姿「新たな豊かさ」「アジアそして世界との共生」

世界への貢献やアジアとの共生につながる競争力の新しい価値観

- | | |
|-------|---|
| 健康 | → 70歳現役社会で高齢者の健康・働き甲斐・満足度・QOLを大幅向上、
老若男女一人ひとりが志を持ち心身ともに元気（ニート・社会不安ゼロ社会） |
| 労働 | → 労働人口をロボットで補いかつ高い生産性を維持、男女を問わない雇用機会、将来に対して夢を持ちチャレンジする人を多く輩出、チャレンジの結実を促進、QOLの向上 |
| 交通 | → 交通事故ゼロ社会、通勤時間短縮によるゆとりの実現 |
| 生活 | → 生活の中で自然を体感、IT社会のセキュリティ万全、食材の100%トレース、住居の高層化（複数世代の隣居）、高齢者・障害者に優しい都市・住宅設計、時間の効率的利用、家族・サークル・組織・地域・世界における多種多様な人々の話し合いと助け合い（虐め・自殺ゼロ社会）、民族や時空を超えて人類に誇れる個の育成 |
| 資源 | → 地球規模での深刻な水問題を解決 |
| 環境 | → 大気、水などすべての指標が今より改善
国内・世界の各地で環境基準を達成 |
| エネルギー | → 急速に増大する発展中の国々の化石燃料消費を抑制（多様化、水素社会等）
国際的にエネルギーの発電・送電・使用を効率化、エネルギーの質的高度利用 |
| 災害 | → 災害に負けない都市インフラ構築 |

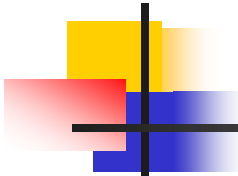
⋮

上記それぞれに分かりやすい定量目標を設定。



イノベーションへの技術の萌芽

健 康	再生医療、テーラーメイド医療、DNAチップ診断、遠隔医療、ドラッグ・デリバリー・システム、人工臓器、マイクロマシン手術、照明治療
労 働	組織・家庭・社会へのロボットの組み込み、バーチャル製造システム、在宅ワーク
交 通	高度ITS（ロボット化、自動化）、リニアモーターカー、自家用小型航空機
生 活	電子マネー高度利用、真のユビキタス社会を創る技術、個別住宅の創エネ・自立化・インテリジェント化、長寿命新構造材、耐震技術
資源・環境・エネルギー	省エネ照明（半導体）、クリーンカー（燃料電池）、新エネルギー利用技術（水素、メタンハイドレード等）、エネルギー使用効率化技術、希少金属代替、インバース製造システム、衛星による地域別環境モニタリング
⋮	⋮



イノベーションを誘発する仕組み作り

世界で「使われる」「人気のある」「売れる」日本発の「技術」・「製品・サービス」・「コンテンツ」・「ヒト」・「プロセス」を創出

(例)

- **「世界の中の日本人」を育成する環境づくり**
 - 教育現場の「大相撲化」
 - メディアの報道体制のグローバル化
- **新たな日本の姿を支える「イノベーション・ニューディール」を導入**
 - クラスタや特区を活用した「イノベーションセンター・モデル地区」の創設
 - 企業規模等に依らない「イノベーション・トップランナー方式」による新たな政府調達
- **「日本をマーケティング」するとともに、中小企業やベンチャー企業の世界進出を促進**
 - 政府によるトップ・セールスや現地の市場情報を有する在外公的機関を活用した隠れたニッポン・ブランドの世界進出の支援
- **「科学的な科学技術政策」を推進**
 - 科学に遡る必要性や産学官・学学・産産連携の効率的形態などを把握した上で、Funnel Management、Innovation Possibility Frontier等を導入し、日本の総合力を活かした科学技術政策を効果的に展開（革新的研究開発への複数応札制度や複数年度会計の導入等）

「イノベーションでつくる２０２５年の社会について御意見をお寄せ下さい」

安倍内閣は、最優先課題の一つとして、２０２５年までを視野に入れた成長に貢献するイノベーションの創造のための長期的戦略指針「イノベーション２５」を取りまとめ、実行することとしている。多くの方々の御意見をもとに、平成１９年２月までに、イノベーションで２０２５年の国民生活が、安全性や利便性の面も含めて、どのようによくなるのか、そのためにどのようなイノベーションが必要なのか等について取りまとめられる予定。

現在、「イノベーション２５」の策定にあたって、こんな発明、こんな社会の仕組みがあったら、こんな人がいたら、私たちの暮らし方、仕事の仕方、学び方は、こう変わるといった、イノベーションでつくる２０２５年の社会について意見を募集中。締め切りは平成１８年１２月３１日。

〔宛先〕

郵送：

〒100-8970 千代田区霞が関 3-1-1 内閣府イノベーション 25 特命室

ファックス：

03-3581-9790

インターネット：

<http://www.cao.go.jp/innovation/index.html#iken>